

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年6月11日

【四半期会計期間】 第31期第2四半期(自 平成27年2月1日 至 平成27年4月30日)

【会社名】 パーク二四株式会社
(定款上の商号 パーク24株式会社)

【英訳名】 PARK24 Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西川 光一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区有楽町二丁目7番1号

【電話番号】 03(3213)8900

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 経営企画本部長 佐々木 賢一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区有楽町二丁目7番1号

【電話番号】 03(3213)8900

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 経営企画本部長 佐々木 賢一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第2四半期 連結累計期間	第31期 第2四半期 連結累計期間	第30期
会計期間	自 平成25年11月1日 至 平成26年4月30日	自 平成26年11月1日 至 平成27年4月30日	自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日
売上高 (百万円)	80,932	86,598	167,022
経常利益 (百万円)	8,675	7,926	17,509
四半期(当期)純利益 (百万円)	5,322	4,906	10,388
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	5,393	5,092	10,542
純資産額 (百万円)	55,205	59,209	60,190
総資産額 (百万円)	127,113	134,166	135,293
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	36.76	33.77	71.66
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	34.66	31.90	67.63
自己資本比率 (%)	43.2	43.8	44.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,431	15,723	33,101
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,303	10,625	22,930
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	8,232	9,016	9,799
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	12,207	11,791	15,693

回次	第30期 第2四半期 連結会計期間	第31期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年2月1日 至 平成26年4月30日	自 平成27年2月1日 至 平成27年4月30日
1株当たり四半期純利益金 額 (円)	14.49	15.92

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移は記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成26年11月1日～平成27年4月30日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善に加え、政府・日銀による各種政策効果の下支えもあり、景気は緩やかな回復基調を辿りました。なお、個人消費については、消費増税後の回復の遅れや円安等を要因とした物価上昇の影響もあり、その足取りは弱さが残りました。

このような環境のもと当社グループは、快適なクルマ社会の実現に向け、駐車場とモビリティサービスのネットワークを拡大し、新サービスの創出と多様なニーズに応えるきめ細かなオペレーションを通じ、ドライバーの方々の支持を得ることに努めてまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は865億98百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益79億26百万円（同8.7%減）、経常利益79億26百万円（同8.6%減）、四半期純利益は49億6百万円（同7.8%減）となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりであります。

「駐車場事業」

駐車場の開発と運用を1ユニットで行うエリア制を、より深化した「エリア密着」の体制としたこと、行政・医療法人等の大型駐車場案件の委託需要を取り込む体制を強化したことにより、駐車場の開発は概ね堅調に推移し、当四半期連結累計期間末におけるタイムズ駐車場の運営件数は14,653件（前連結会計年度末比104.7%）、運営台数は492,619台（同104.7%）、月極駐車場及び管理受託駐車場を含めた総運営件数は16,099件（同104.4%）、総運営台数は601,046台（同104.4%）となりました。また、そのエリアに密着した体制を徹底し、きめ細やかな運営施策を展開したものの、平成26年4月の消費増税以降続く交通量の減少をはじめ外部環境が影響し、当事業の売上高（セグメント間の内部売上高を含む）は655億87百万円（前年同期比4.2%増）となり、営業利益は107億37百万円（同11.8%減）となりました。

「モビリティ事業」

タイムズカーについては、車両利用状況のコンサルティングによる法人営業、メンテナンス機能の充実による稼働時間の低減を図ったほか、新幹線停車駅・空港など交通結節ポイントへの車両配備、レンタカーの簡易貸出サービス「ピット&Go」の導入等、さらに利用しやすい環境作りをすすめております。また、超小型電気自動車「TOYOTA i-ROAD」による都心部におけるワンウェイ型シェアリングサービスの実証実験の開始、ユーズドカーの個人向けWeb販売など、グループの事業基盤を活用した新たな取り組みを行っております。

この結果、モビリティ事業全体の当四半期連結累計期間末の車両台数は前連結会計年度末比104.6%の37,990台（うち、カーシェアリングサービスの車両台数は11,851台）となり、当事業の売上高（セグメント間の内部売上高を含む）は210億89百万円（前年同期比16.8%増）、営業利益は6億10百万円（前年同期は1億12百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比11億27百万円減少して1,341億66百万円となりました。主な増減と致しましては、増加で機械装置及び運搬具（純額）が10億68百万円、長期前払費用等を含む投資その他の資産が4億50百万円、減少で現金及び預金が39億1百万円となっています。

負債合計は、同1億46百万円減少し、749億56百万円となりました。未払金等を含む流動負債のその他の増加12億2百万円に対し、未払法人税等の減少6億57百万円、会計基準の改正による退職給付に係る負債の減少11億95百万円が主な増減要因となっています。

純資産は、負債の項目でも述べた退職給付に関する会計基準の改正により期首利益剰余金が8億81百万円増加したことに加え、四半期純利益の計上による増加49億6百万円、利益剰余金の配当による減少72億58百万円などにより、同9億80百万円減少し、592億9百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べて39億1百万円減少し、117億91百万円となりました。

当四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、157億23百万円（前年同期比12億92百万円の増加）となりました。主な内訳といたしましては、減価償却費を加えた税金等調整前四半期純利益177億28百万円に対し、法人税等の支払額35億68百万円があったことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用したキャッシュ・フローは、106億25百万円（前年同期比13億22百万円の増加）となりました。これは主として、タイムズ駐車場の開設や営業車両の取得に伴う、有形固定資産の取得による支出83億4百万円、長期前払費用の取得による支出18億2百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、90億16百万円の資金の支出（前年同期比7億83百万円の支出の増加）となりました。これは、短期借入金の純増額16億円、長期借入れによる収入11億50百万円、株式の発行による収入2億24百万円があった一方、配当金の支払額72億40百万円、長期借入金の返済27億35百万円があったことなどによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

特記事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	283,680,000
計	283,680,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	145,429,204	145,429,204	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	145,429,204	145,429,204	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成27年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年2月1日～ 平成27年4月30日	96,100	145,429,204	51	8,357	51	10,109

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成27年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する所有株式 数の割合 (%)
有限会社千寿	東京都世田谷区成城6-14-11	21,746	14.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	12,539	8.62
西川 光一	東京都世田谷区	8,110	5.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	7,951	5.46
MSCO CUSTOMER SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーM U F G証券株式会社)	1585 Broadway New York, New York 10036, U.S.A. (東京都千代田区大手町1-9-7)	6,518	4.48
西川 功	東京都世田谷区	6,194	4.25
日本信号株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	3,853	2.64
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3-11-1)	3,582	2.46
西川 恭子	東京都世田谷区	3,200	2.20
浅井 千寿	東京都世田谷区	2,558	1.75
計	-	76,254	52.43

(注) 1 上記信託銀行株式会社の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、以下のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 12,539千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 7,951千株

2 次の法人から、平成27年4月23日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)により、平成27年4月17日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
キリン・マネジメント・エルエルシー	アメリカ合衆国10017、ニューヨーク州 ニューヨーク市マディソン・アヴェ ニュー366	9,111	6.27

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 900	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 145,392,700	1,453,927	-
単元未満株式	35,604	-	-
発行済株式総数	145,429,204	-	-
総株主の議決権	-	1,454,283	-

(注) 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が12,800株（議決権128個）含まれております。

【自己株式等】

平成27年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
（自己保有株式） パーク24株式会社	東京都千代田区有楽町2-7-1	900	-	900	0.00
計	-	900	-	900	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年2月1日から平成27年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年11月1日から平成27年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,709	11,807
受取手形及び売掛金	7,313	7,436
たな卸資産	2,767	2,838
その他	11,432	11,445
貸倒引当金	74	72
流動資産合計	35,148	31,455
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,124	12,153
機械装置及び運搬具（純額）	28,175	29,244
土地	24,303	24,303
リース資産（純額）	13,705	14,125
その他（純額）	4,196	4,769
有形固定資産合計	82,505	84,596
無形固定資産		
のれん	693	617
その他	1,461	1,563
無形固定資産合計	2,155	2,180
投資その他の資産	1,15,484	1,15,934
固定資産合計	100,145	102,710
資産合計	135,293	134,166
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	617	496
短期借入金	6,235	7,600
未払法人税等	3,725	3,067
賞与引当金	1,289	1,401
引当金	84	38
その他	20,322	21,524
流動負債合計	32,274	34,128
固定負債		
新株予約権付社債	21,000	21,000
長期借入金	7,287	5,937
退職給付に係る負債	1,195	-
資産除去債務	4,247	4,411
その他	9,097	9,478
固定負債合計	42,828	40,827
負債合計	75,103	74,956

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,219	8,357
資本剰余金	9,972	10,109
利益剰余金	42,842	41,371
自己株式	1	1
株主資本合計	61,032	59,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97	116
土地再評価差額金	1,052	1,052
為替換算調整勘定	13	130
退職給付に係る調整累計額	300	250
その他の包括利益累計額合計	1,241	1,055
新株予約権	399	428
純資産合計	60,190	59,209
負債純資産合計	135,293	134,166

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
売上高	80,932	86,598
売上原価	59,510	65,229
売上総利益	21,421	21,368
販売費及び一般管理費	1 12,738	1 13,442
営業利益	8,683	7,926
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	2	2
持分法による投資利益	18	-
駐車場違約金収入	37	15
未利用チケット収入	83	79
為替差益	19	97
その他	77	51
営業外収益合計	239	248
営業外費用		
支払利息	57	33
持分法による投資損失	-	8
駐車場解約費	178	188
その他	11	17
営業外費用合計	247	248
経常利益	8,675	7,926
特別損失		
固定資産除却損	23	21
投資有価証券売却損	-	8
特別損失合計	23	29
税金等調整前四半期純利益	8,652	7,896
法人税、住民税及び事業税	3,320	2,997
法人税等調整額	10	7
法人税等合計	3,330	2,989
少数株主損益調整前四半期純利益	5,322	4,906
四半期純利益	5,322	4,906

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,322	4,906
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	19
為替換算調整勘定	6	44
退職給付に係る調整額	-	49
持分法適用会社に対する持分相当額	58	72
その他の包括利益合計	71	185
四半期包括利益	5,393	5,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,393	5,092

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,652	7,896
減価償却費	8,779	9,831
退職給付引当金の増減額（は減少）	7	-
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	270	-
受取利息及び受取配当金	3	3
支払利息	57	33
固定資産除却損	23	21
売上債権の増減額（は増加）	80	120
たな卸資産の増減額（は増加）	1,034	1,210
仕入債務の増減額（は減少）	200	121
未収入金の増減額（は増加）	1,081	184
前払費用の増減額（は増加）	89	156
未払金の増減額（は減少）	988	450
設備関係支払手形の増減額（は減少）	29	386
その他	749	538
小計	18,923	19,323
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	57	34
法人税等の支払額	4,437	3,568
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,431	15,723
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	6	6
定期預金の払戻による収入	6	6
有形固定資産の取得による支出	6,800	8,304
有形固定資産の売却による収入	24	24
無形固定資産の取得による支出	216	286
投資有価証券の取得による支出	500	-
長期前払費用の取得による支出	1,463	1,802
その他	347	255
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,303	10,625
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,000	1,600
長期借入れによる収入	1,400	1,150
長期借入金の返済による支出	5,583	2,735
リース債務の返済による支出	1,807	2,014
株式の発行による収入	835	224
自己株式の取得による支出	309	-
配当金の支払額	5,768	7,240
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,232	9,016
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	16
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,102	3,901
現金及び現金同等物の期首残高	15,310	15,693
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 12,207	1 11,791

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率による方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率による方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が1,195百万円減少するとともに投資その他の資産（退職給付に係る資産）が172百万円増加し、利益剰余金が881百万円増加しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第2号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以降に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の35.6%から、平成27年11月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年11月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.4%となります。なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年4月30日)
投資その他の資産	14百万円	14百万円

2 たな卸資産の内訳は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成26年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年4月30日)
商品	42百万円	52百万円
貯蔵品	725百万円	785百万円
合計	767百万円	838百万円

3 有形固定資産の所有目的の変更

レンタカー事業において中古車両の売却を営業サイクルの一環として行う為、前連結会計年度及び当四半期連結累計期間においてたな卸資産（商品）に振替えております。なお期末残高及び四半期末残高はありません。

	前連結会計年度 (平成26年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年4月30日)
たな卸資産（商品）	2,534百万円	1,280百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
給料及び手当	4,907百万円	5,220百万円
賞与引当金繰入額	765百万円	956百万円
退職給付費用	157百万円	190百万円
役員賞与引当金繰入額	34百万円	11百万円
地代家賃	955百万円	1,030百万円
株式報酬費用	88百万円	79百万円
のれんの償却額	178百万円	76百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
現金及び預金勘定	12,223百万円	11,807百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	16百万円	16百万円
現金及び現金同等物	12,207百万円	11,791百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間（自 平成25年11月1日 至 平成26年4月30日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年1月29日 第29回定時株主総会	普通株式	5,773	40	平成25年10月31日	平成26年1月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成26年11月1日 至 平成27年4月30日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年1月28日 第30回定時株主総会	普通株式	7,258	50	平成26年10月31日	平成27年1月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成25年11月1日 至 平成26年4月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	駐車場事業	モビリティ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	62,894	18,038	80,932	-	80,932
セグメント間の内部売上高 又は振替高	60	17	77	77	-
計	62,955	18,055	81,010	77	80,932
セグメント利益又は損失()	12,172	112	12,059	3,376	8,683

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 3,376百万円には、のれんの償却額 178百万円、全社費用 3,198百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成26年11月1日 至 平成27年4月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	駐車場事業	モビリティ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	65,549	21,049	86,598	-	86,598
セグメント間の内部売上高 又は振替高	38	40	78	78	-
計	65,587	21,089	86,677	78	86,598
セグメント利益	10,737	610	11,348	3,421	7,926

(注) 1 セグメント利益の調整額 3,421百万円には、のれんの償却額 76百万円、全社費用 3,344百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	36円76銭	33円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	5,322	4,906
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	5,322	4,906
普通株式の期中平均株式数(千株)	144,786	145,284
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	34円66銭	31円90銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	8,781	8,510
(うち新株予約権)(千株)	(816)	(521)
(うち新株予約権付社債)(千株)	(7,964)	(7,989)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年6月10日

パーク二四株式会社
(定款上の商号 パーク24株式会社)
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 栗原 学 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 須山 誠一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパーク二四株式会社（定款上の商号 パーク24株式会社）の平成26年11月1日から平成27年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年11月1日から平成27年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パーク二四株式会社（定款上の商号 パーク24株式会社）及び連結子会社の平成27年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。